富山県立山町総合公園内

野沢狐幅遺跡

緊急発掘調査概要Ⅰ

1983年3月

立山町教育委員会

序

近年経済成長、技術革新等の新しい社会的条件の下で、これまでのレジャースポーツ生活から日常生活の中で、スポーツレクリエーション等の時間消費的余暇活動への志向が高まり、皆が気軽に利用できるオープンスペーススポーツ施設が求められています。

立山町においても町制施行30周年記念事業として総合公園の建設計画が進められておりますが、この事業に先立って文化財保護の見地から野沢狐幅遺跡の発掘調査を行ったのであります。

その結果、集落跡とみられる遺構とともに遺物が確認されました。

今回の調査は関係者のご理解と、多くの人々の参加・協力を得て実施することができました。

本書は過去の生活の場として辿った歩みを発掘調査を通して具体的にさぐり出し、残された史実の記録として作成されました。

本書が埋蔵文化財の愛護と研究、そして遺跡の理解に益することになれば幸いに思います。

末文ながらこの調査に協力いただいた富山県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位に深く謝意を申し上げます。

昭和58年３月

立山町教育委員会

目　次

序

例　言

Ⅰ　遺跡の位置と周辺……1

第１図　地形と周辺の遺跡　……1

Ⅱ　調査の概要……2

第２図　地形と発掘区……3

遺構……4

遺物……5

Ⅲ　調査の結果……6

年　表……7

例　言

1．本書は、立山町総合公園野球場予定地内に存在する野沢狐幅遺跡の範囲・遺構・遺物包含層の存否を確認することを目的とした発掘調査の報告である。

2．調査は、約8000㎡を対象として昭和57年11月９日から同年12月８日まで延７日間実施した。調査総面積は、1527㎡である。

3．調査は、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を得て、立山町教育委員会が実施した。

4．調査参加者は、下記のとおりである。

調査担当者　富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事　酒井重洋

調査参加者　土肥久雄・泉野三郎・城戸義秋・城戸幸次郎・城戸喜則・泉野重次・高木隆盛・土井喜代嗣・土井喜三郎・土肥久信・石田利宗・堀田悦雄・城戸トシイ・泉野ミキ・土井アヤ・沢崎ハル子・長沢紀美子・城戸コノエ・城戸サチ子・泉野ミツ子・高木和子・城戸トミ子・城戸ハツ枝・沢崎敏枝・沢崎邦子・泉野幸子・土肥ミツイ・土肥ミツエ・橋場クニエ・山崎淑枝・藤畑ハルエ・山崎エミ子・小池ミヨエ・小池スミエ・細川ミツエ・石田ミツエ・土井クニコ・渡辺玲子・藤畑キクエ・大畑みき・村上ミドリ・西井ミノリ・西井一三枝・小池スズ子・西井八重子・小池悦子・高木マツエ・藤畑淳子

5．調査事務局は、立山町教育委員会社会教育課に置き、庶務を主事渡辺久雄が担当し、課長荒木慶一が総括した。

6．本書の編集・執筆は、埋蔵文化財センター所員の助言・協力を受けて酒井重洋が行なった。

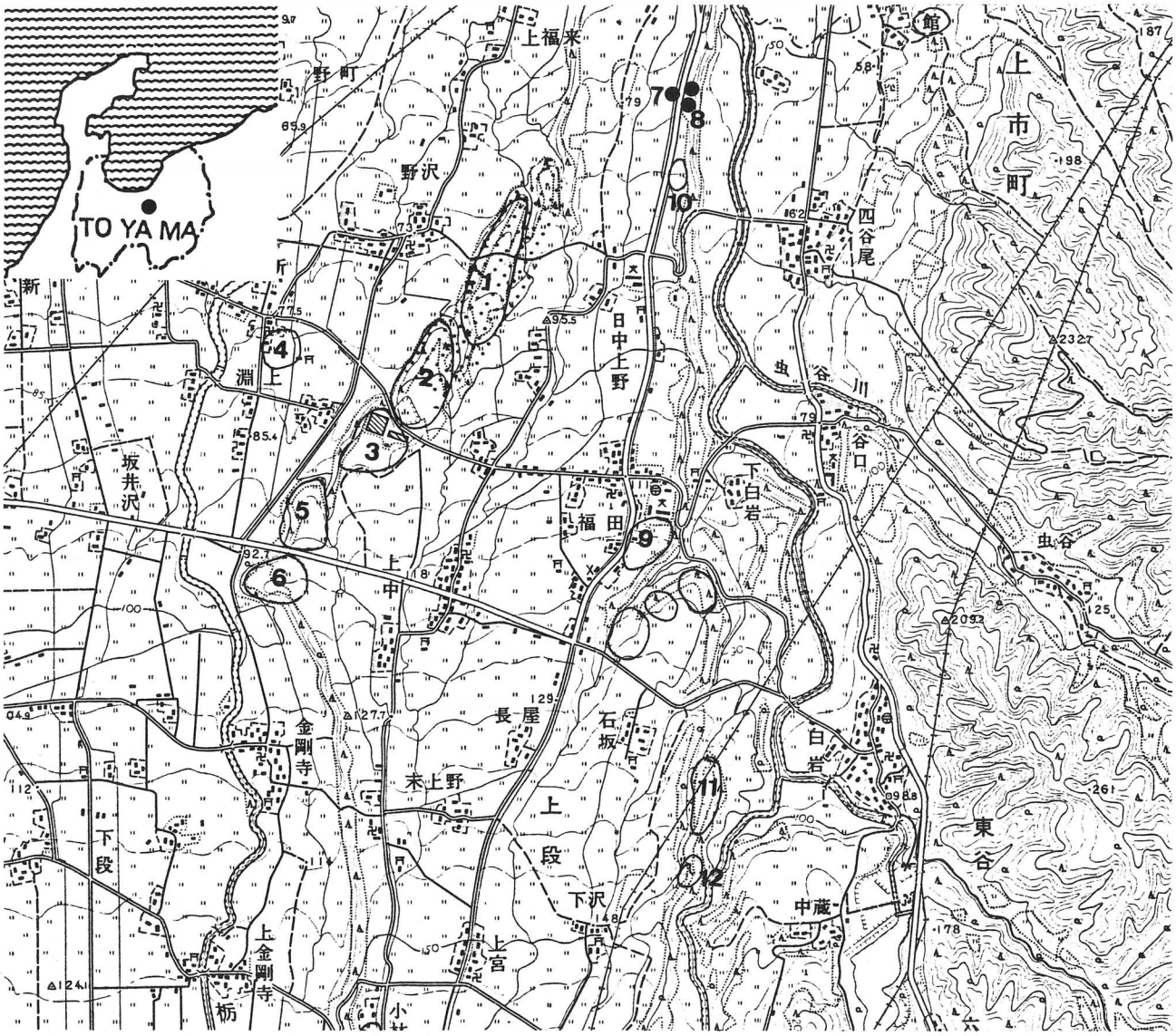
Ⅰ　遺跡の位置と周辺

立山連峰に源を発し、富山県のほぼ中央部を貫流する常願寺川の右岸には、旧常願寺川扇状地が隆起してできた河岸段丘が発達し、上下７段におよぶ連続した段丘地形となっている。中でも上段段丘上には、数多くの遺跡が立地し、先土器時代のユニットが４ヶ所と縄文時代中期前葉の住居跡６棟が発見された白岩薮ノ上遺跡（先土器・縄文早～中期）を初め、白岩尾掛遺跡（縄文草創～中期）・野沢苦情池遺跡（縄文中期）・野沢竜ヶ鼻遺跡（縄文中期）・白岩根骨遺跡（縄文晩期）・日中墓ノ段遺跡（縄文中期）・日中源平腰遺跡（縄文早・前・古墳）など多くの遺跡がみられる。

これらの遺跡は、上段段丘が小支谷により開折された小丘陵上に点々と立地し、県下でも遺跡数の多い地域である。

野沢狐幅遺跡は、南北にのびる上段段丘のほぼ中央部の常願寺川に面する幅約50m、長さ約200mの小丘陵上に位置する。この東側には、開折された小支谷がはいり込み約200mへだてた対岸には、野沢大谷遺跡が立地する。大谷遺跡も狐幅遺跡同ように、東側を小支谷により開折された幅100m、長さ500mの丘陵上に立地する。

このように、上段段丘上の小丘陵は先土器時代・縄文時代には、人々が生活を営むに適した環境であったと考えられる（第１図）。



第１図　地形と周辺の遺跡（１／25,000）１．野沢大谷遺跡　２．野沢狐幅遺跡　３．野沢苦情池遺跡　４．金剛新遺跡　５．野沢竜ヶ鼻遺跡　６．末上野竜ヶ浜遺跡　７．日中東経塚　８．日中玉橋経塚　９．白岩根骨遺跡　10．日中上野東林遺跡　11．白岩薮ノ上遺跡　12．白岩尾掛遺跡

Ⅱ　調査の概要

1　調査に至るまで

立山町では、町制30周年を迎えるにあたり、町民のスポーツ振興策の一環、またいこいの広場として野沢地内に総面積約18*ha*の総合公園計画を企画し、マスタープランの作製が行われた。しかし、同地内には、野沢狐幅遺跡・野沢大谷遺跡の２遺跡の存在がすでに知られており、立山町建設課・同教育委員会・富山県教育委員会の三者により、遺跡の保護と工事計画との調整をはかることとして事前協議が催された。

協議では、上段段丘上は、遺跡の多数存在する地域であり、まず公園計画地内の分布調査を実施し、遺跡の有無を確認し、遺跡の措置を考えるとして合意した。

昭和57年４月には、協議をうけ富山県埋蔵文化財センターは、延２日間で同地内約18*ha*の分布調査を行った。その結果、野沢狐幅・同大谷地内にはほぼ全域に遺物の散布がみられ野沢狐幅遺跡(縄文中期)・野沢大谷遺跡(縄文中・晩期)の存在が確認された。

また、分布調査では、水田のため遺物が確認されなかった日中上野字竹俵地内にも地形から見ると遺跡の存在する可能性を残す。

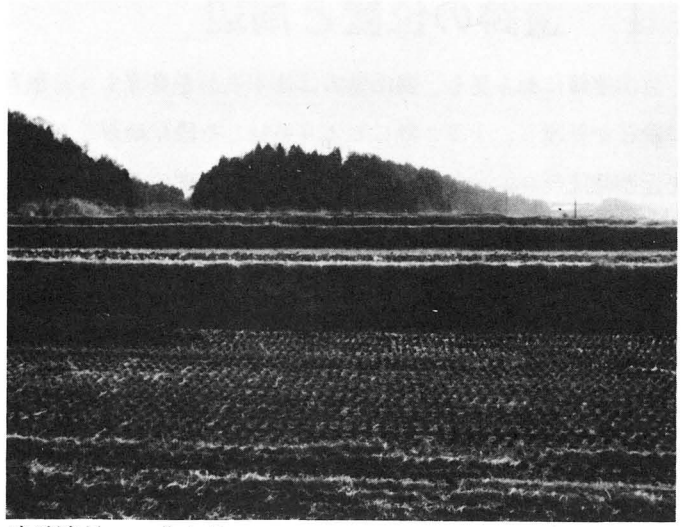
分布調査の結果をもとに三者による協議が行われ、マスタープランで切土工事となる野沢狐幅遺跡の約8000㎡に対して遺跡の内容・範囲の確認を目的とした調査を実施し、遺跡の保護措置を考えることとして三者が合意した。

2　第１次調査

調査は、立山町教育委員会が主催し、富山県埋蔵文化財センターの協力をうけて昭和57年11月９日から同年12月８日まで延７日間で実施した。

調査は、造成工事が予定される約8000㎡を対象として幅１ｍのトレンチを５ｍ間隔に設け、遺跡の内容・範囲の確認を行った。総発掘面積は1527㎡である。

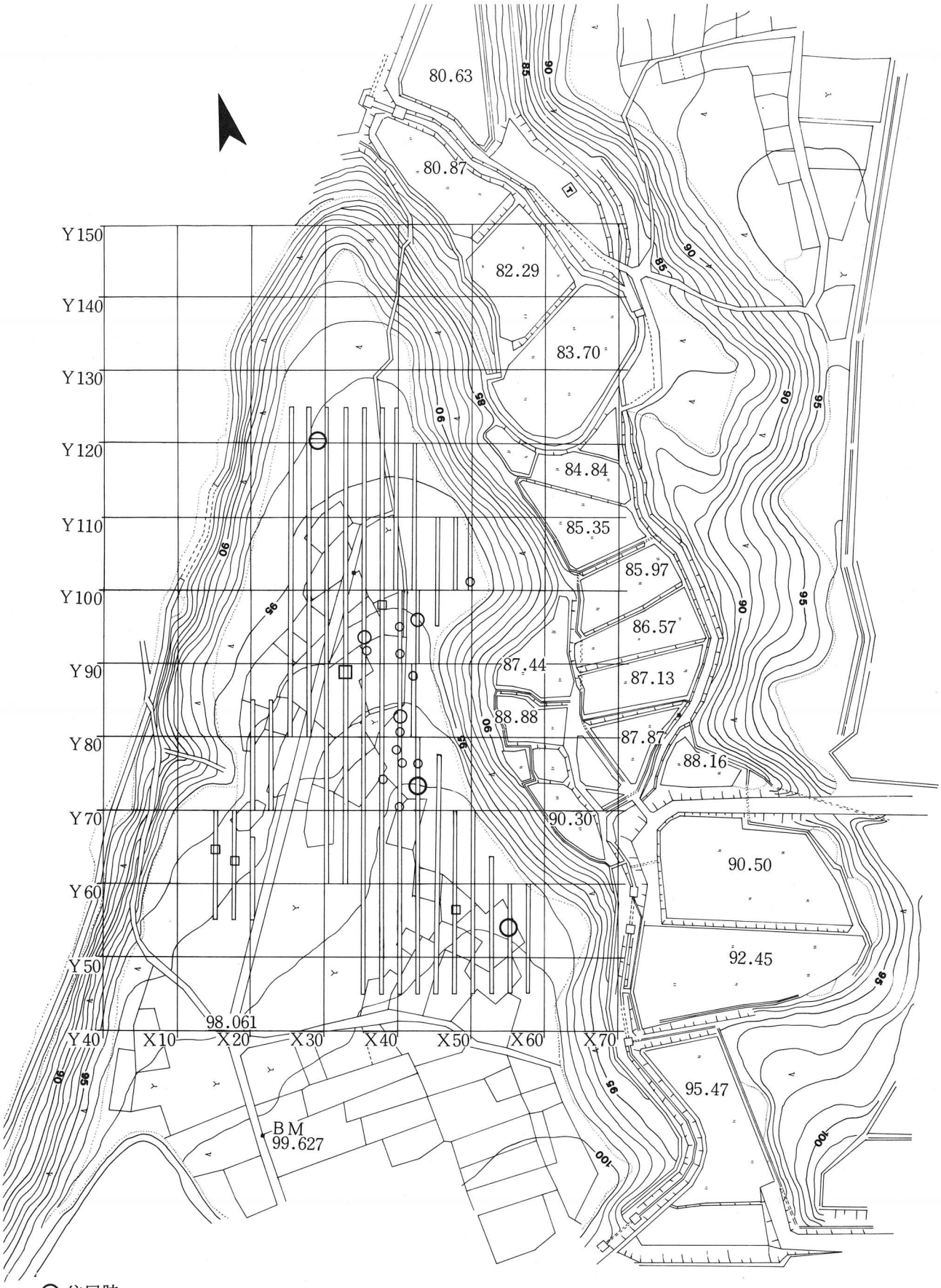
層序は、１層耕作土（20～40cm）・２層黒色土(20



遺跡遠景　　北より

発掘区遠景　南より

発掘作業状況

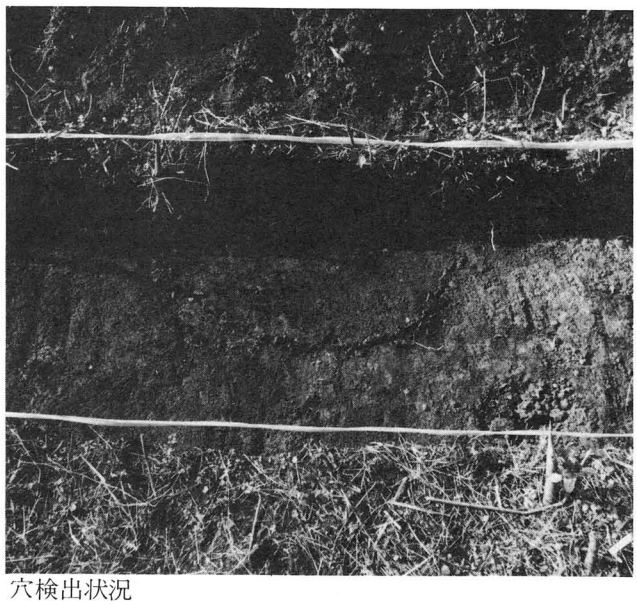


○ 住居跡
□ 近世以降の炭焼穴
○ 穴

0 50M

第2図　地形と発掘区（1／1,500）

発掘区遠景　東より


穴検出状況

cm）・３層地山漸移層（10cm）・４層地山（黄褐色土）となる。しかし、台地上では、２層がほとんどみられず、小支谷内に２～４層の堆積がみられる。地山層は、４層（黄褐色土）と５層（黄白褐色土）に分かれ、台地端部では４層がみられず５層または礫まじりの黄褐色土層となる。このことから４層は、すでに流失したと考えられる。また、台地西側で深掘りを行ったが先土器時代の遺物は認められない。

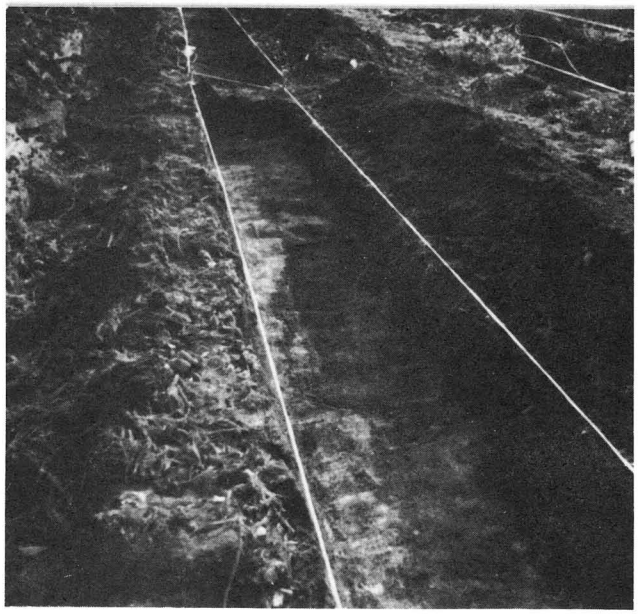
遺構（第２図）

検出した遺構は、縄文時代に属するものと近世のものがある。

縄文時代の遺構は、台地上の小高くなった東側部分から先端にかけての縁辺部に多くみられ、台地西側にはみられない。竪穴住居跡は、Ｘ55Ｙ52付近・Ｘ45Ｙ73付近に縄文時代中期前葉のものが各１棟づつ、Ｘ30Ｙ120付近に同中期中葉のものを１棟の計３棟検出した。また、Ｘ40Ｙ82付近・Ｘ43Ｙ95付近には、茶褐色土の落ち込みがみられ住居跡である可能性をもつ。

穴は、台地東側部に散在し、縄文時代中期前葉から中葉にかけてのもので12ヶ所を検出した。平面形は、直径１ｍほどの円形で貯蔵穴と考えられるものと、土坑状の長方形のものがみられる。近世の遺構には、直径１ｍの円形の穴と、２ｍ×３ｍほどの長方形のものがある。

両者の覆土には、多量の炭化物が含まれていることか


穴検出状況

住居跡検出状況

ら炭焼用の穴と考えられ、台地上に点々と検出された。

遺物

遺物には、縄文時代の土器・石器、古墳時代の土師器１点、近世の陶磁器がある。

土器　細かな楕円文(1)と格子目文(2)の回転押形文土器が出土しており縄文時代早期に位置づけられる。また、胎土に植物繊維を含み、器面に条痕や縄文を施す４～６があり縄文時代早期末～前期初頭の土器である。

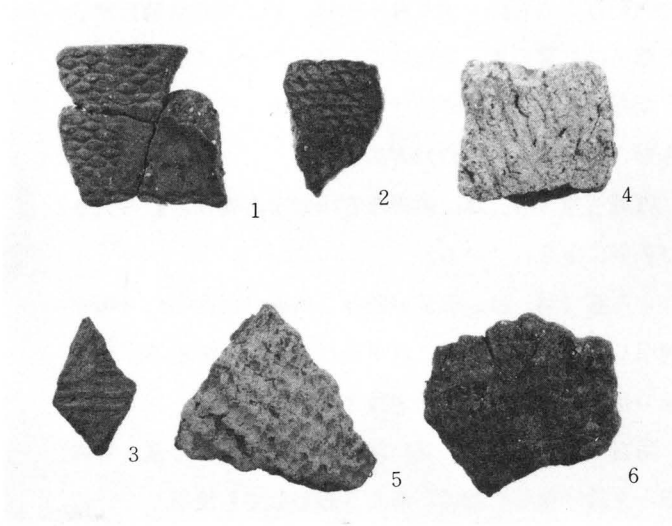
縄文時代中期の土器は、起隆帯により三角に区切られた中を爪形文を連続して施す７や、「Ｂ」字状の入り組んだ文様を施す10・11などの中期前葉の土器と、撚糸文や複雑な渦巻き文様を施す12～14があり、中期中葉に位置づけられる。

縄文時代晩期の土器は、器面に条痕を施す16・17や口縁部に眼鏡状の文様を付ける18がある。

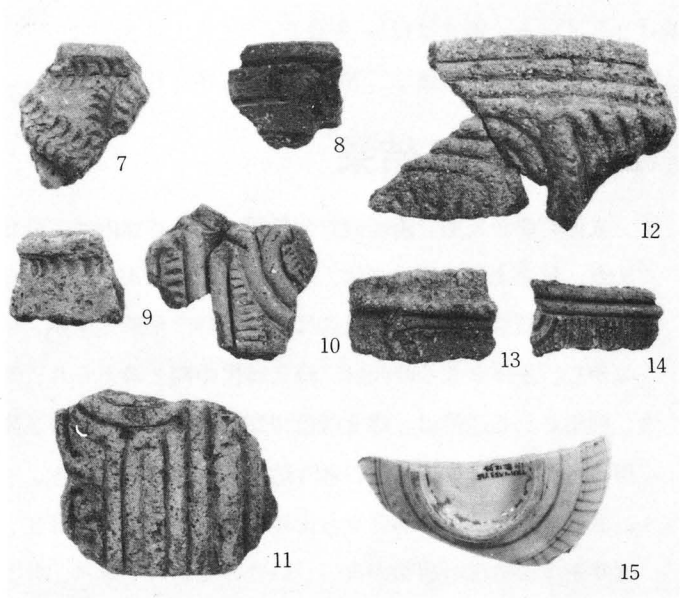
15は、古伊万里の染付碗で近世のものと考えられる。

大谷遺跡の土器　土器には、木目状撚糸文や縄文を施す19・20・22と条痕や細かな縄文を施す21・23・24があり、前者は、縄文時代中期、後者は同晩期のものである。

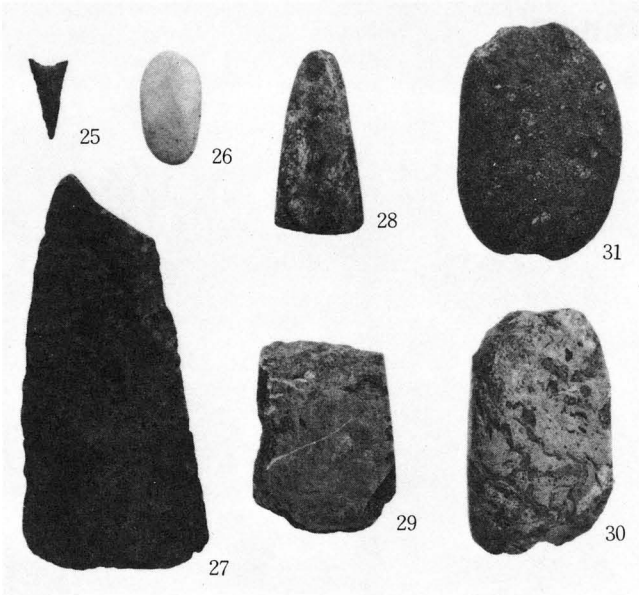
石器　石器は、縄文時代のもので狩猟用の石鏃、



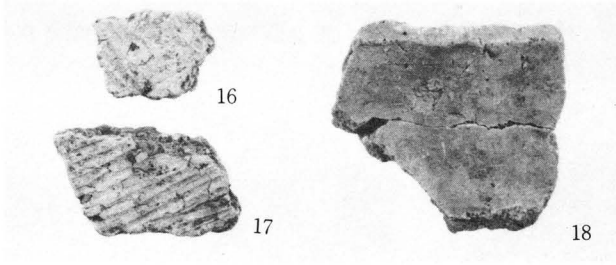
野沢狐幅遺跡縄文時代早・前期の土器（１／２）



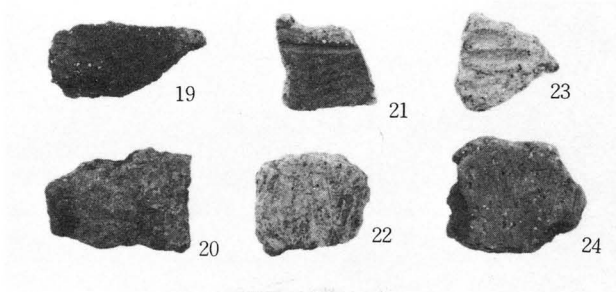
野沢狐幅遺跡縄文中期・近世の土器（１／３）



野沢狐幅遺跡石器（１／３）



野沢狐幅遺跡縄文晩期の土器（１／２）



野沢大谷遺跡縄文中・晩期の土器（１／２）

食物調理用の石皿・すり石・凹石、木工用の磨製石斧、土掘用の打製石斧、漁獲用の石錘が出土している。

磨製石斧は、蛇紋岩製で丁寧に磨き上げられており、中形の29・30と小形の28がある。

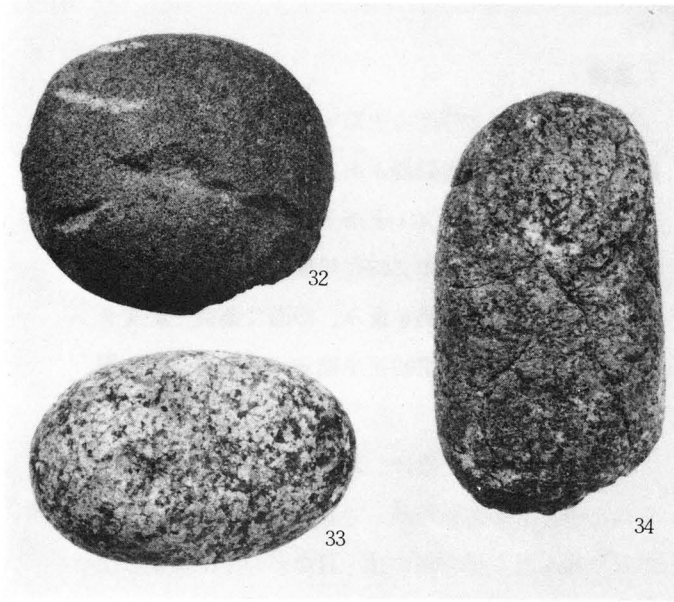
打製石斧（27）は、偏平な安山岩を両端から打ち欠きバチ形に作られている。

すり石（34）は、細長い断面三角形の河原石の一端を利用し、端部がよく使われ平坦にすり減っている。出土数の最も多い石器で15個を数える。

凹石（32・33）は、丸い河原石の平坦部に２個１対の窪みを設けた石で32は、たたき石としても使用している。

31は、石錘で楕円形の平坦な礫の両端を打ち欠き、紐掛けとしている。重さは121g を計る。

25は、安山岩質の石鏃で二等辺三角形に作られている。



野沢狐幅遺跡　石器（１／３）

Ⅲ　調査の結果

１．立山町総合公園計画地内野沢狐幅・同大谷地内は、分布調査の結果ほぼ全域に遺物が散布し、遺跡が存在する。また、日中上野竹俵地内は、水田のため遺物が発見できなかったが、地形などから遺跡の存在する可能性をもつ。

２．調査の結果、野沢狐幅遺跡は、縄文時代早期・前期・中期・晩期、古墳時代、近世の遺物と遺構が検出された。しかし、主体となる時代は、縄文時代中期と考えられ、数棟の住居跡を中心とする集落遺跡と推測される。

３．検出された遺構は、縄文時代中期前葉の竪穴住居跡２棟、同中葉の竪穴住居跡１棟、竪穴住居跡または、包含層と考えられる茶褐色土の落ち込み２ヶ所、穴12ヶ所、近世以降の炭焼穴５ヶ所を確認した。

４．遺構は、台地東側部分から先端部分にかけて多く存在し、遺物も同様の分布を示す。また、上段段丘上では、近年先土器時代の遺物があいついで発見されており、野沢狐幅遺跡にも存在することが推測されたため、台地西側部で深掘りを行ったが発見されなかった。しかし、東側部分は、縄文時代の遺構が存在するため深掘り調査を行っておらず、今後、先土器時代の遺物が発見される可能性を残す。

年　　表

時代	年代	野沢狐幅遺跡の時代	野沢大谷遺跡の時代	生活の移り変わり	立山町のおもな遺跡	県内のおもな遺跡
先土器時代	3万年前	?	?	• 日本にナウマン象がいた • 石刃とナイフの文化 • 石器が小さくなる • 弓矢が発明される	白岩薮ノ上 吉　峰 日中上野東林	直　坂(大沢野) 眼目新丸山(上市) 立　美(福　光)
縄文時代	1万年前 草創期 早期	○		• 土器が発明される • 洞穴をすまいとする • 土器に縄目が付けられる • 尖底の土器が使用される • 竪穴住居が使用される • 押形文土器が作られる	天林北 吉　峰 白岩尾掛 二ツ塚	長　沢(婦　中) 八木山(大沢野) 桜　峠(魚　津) 人　母(福　光)
	6000年前 前期	○		• 植物繊維を入れた土器が作られる • 複雑な縄目が付けられる • 平底の土器が作られる • 貝塚がたくさん作られる • 石器がたくさん作られる	日中源平腰 吉　峰 野　口	極楽寺(上　市) 朝日貝塚(氷　見) 蜆ヶ森貝塚(富山) 小竹貝塚(富　山) 囲　山(小　杉)
	5000年前 中期	◎	○	• 装飾性の強い土器が作られる • 大集落がふえる • ヒスイの装飾品が使われる • 動物を形どった文様が土器に付けられる • 大形の石棒が作られる	白岩薮ノ上 野沢苦情池 野沢竜ヶ鼻 二ツ塚 日中墓ノ段 岩峠野	不動堂(朝日町) 下山新(朝日町) 天神山(魚　津) 串田新(大　門) 小竹薮(高　岡)
	4000年前 後期			• 土器の器形の種類が多くなる • 土器の文様が単純になる • 東北や東海地方の影響を受けた土器が富山で作られる • まじないにつかう石器が多くなる	二ツ塚 金剛新 日　水	愛本新(宇奈月) 布　尻(大沢野) 井　口(井　口) 本江広野新(滑川) 早月上野(魚　津)
	3000年前 晩期	○	◎	• 東北地方の亀ヶ岡文化が北陸にもつたわる • 条痕を付けた土器が多くなる	白岩根骨 天林北	勝木原(高　岡) 中　川(高　岡) 豊　田(富　山) 丸山A(上　市)
弥生時代	B.C4			• 水田による稲作が初まる • 金属器が使われる • 遠賀川土器が北陸につたわる • 方形の溝をめぐらす墓が作られる	二ツ塚 稚児塚遺跡 辻	大境洞穴(氷　見) 石　塚(高　岡) 正印新(上　市) 江上A(上　市) 囲　山(小　杉)

時代	年代	野沢狐幅遺跡の時代	野沢大谷遺跡の時代	生活の移り変わり	立山町のおもな遺跡	県内のおもな遺跡
古墳時代	A.D 300	○		• 高塚古墳が作られる • 大集落が作られる • 富山で須恵器が焼かれる • 横穴古墳が盛行する	西　反 日中源平腰 辻坂の上 稚児塚 藤　塚	中山南(小　杉) 杉　谷(富　山) 王　塚(婦　中) 桜谷古墳群(高岡) 城ヶ平横穴群(福岡) 中山王古窯(上市) 金草古窯(富　山)
奈良時代	A.D 710			• 国の都が平城京に移される • 東大寺で大仏が作られる • 国分寺が各地に作られる • 和同開珠が作られる	上末古窯	平桜古窯(小矢部) 天池古窯(小　杉) 国分寺(高　岡)
平安時代	A.D 794			• 国の都が平安京に移される • 貴族文化が栄える • 経塚が作られる	日中玉橋経塚 利田横枕 法光寺谷古窯 吉峰古窯	じょうべのま(入善) 高　瀬(井　波) 野　田(大沢野) 京ヶ峰経塚(上市)
鎌倉時代	A.D 1192			• 鎌倉に幕府が開かれる • 珠洲が焼かれる • 掘立柱建物が一般化する	若宮B	神　田(上　市) 江上B(上　市)
室町時代	A.D 1338			• 室町幕府が開かれる • 戦乱の世 • 城館が多く築かれる • 富山に中世窯が開かれる	若宮A 池田城 日中砦	日の宮(小矢部) 増山城下町(砺波) 弓庄城(上　市) 増山城(砺　波)
江戸時代	A.D 1600	○		• 関ヶ原の戦いで西軍がやぶれる • 江戸に幕府が開かれる	越中瀬戸窯	

富山県立山町総合公園内

野沢狐幅遺跡

緊急発掘調査概要Ⅰ

発行日　昭和58年3月31日
発行者　立山町教育委員会
編集者　富山県埋蔵文化財センター
印刷者　(有)日本海印刷